資料番号６－２

朝霞市総合振興計画審議会（第５回）会議録要旨

（平成２６年２月１７日）

■「将来像」編

○斎藤委員
・第４次を見ていくと、すごくよいことが書かれていると思う。
・計画というのは、基本的には途中でコロコロと変わってしまってよくないだろう。
・基本的には、継続でもいいのではないかと思う。
・民間的な発想で言うと、何がしたいのか。例えば、川越市は基本的には城下町であるため、城下町ということをある程度前面に出しているが、朝霞市はいったい何をするのか。何をコアにするのかを考えてもいいのではないか。

○佐野委員
・第４次の将来像がこの計画実現でどれだけ意味合いを持つか。
・もっと身近にその施策として実現を目指しているということが感じられるようなものであらねばならないように思う。

○田辺委員
・文教都市があってもいい。

○斎藤委員
・一例として、市立大学をつくってしまえばいいのではないか。それだけの力がこのまちにはあると思う。

○村上委員
・もっと具体的に皆さんが住んでいるまちに対して、「ああ、ここ朝霞はいいな。」というものを目指さないといけないと思う。

○百武委員
・将来像については、文言をまだ変えられるというタイミングであるのであれば、もうちょっと見えてからこういうことを検討してもいいのではないか。

○沼田会長
・第４次の将来像は朝霞市に初めて来たときに感じた。その意味では第４次は及第点と思う。
・ワールドカフェや市民意識調査結果でも第４次の将来像が見えているので、単純に第５次にスライドさせるというよりは、方向性を何か付け加えたり、あるいは異質なものを入れたり、文教都市もいいと思うが、そういう知恵が第５次でつくれればいいと思っている。

○中村委員
・第４次の将来像は、非常にイメージしやすいという気はするがかなり抽象的である。
・抽象的なキャッチフレーズよりは、できれば「文化学園都市」でもいいし、「環境都市」でもいいが、もう少し我々市民がイメージしやすいようなキャッチフレーズにしたらどうかと思う。
・市役所の隣に実は広大な緑の土地があり、これを将来的に朝霞市や市民はどういうふうに考えているのか。確かに、緑として残していくということは誰しもがそうだと思うが、ただこの緑を生かしながらそこに何かできないのかなと。例えば東洋大学の学部二つくらいここに持ってくるとか、そういう構想もあり得ると思う。
・将来人口推計が約１３６，０００人となっているが、商店街等も考えたら交流人口をもっと増やす

方に考えてもいいのではないか。
・市立大学や他の大学を誘致するというのも検討に値する事項ではないかと思う。
○大石委員
・第４次の将来像の総括を踏まえて、第５次の中で継続するべきもの、あるいはもう達成されたものがあると思うが、その中で、第５次の将来像というのをどういうふうに持っていくか。
・例えば、「若い人が住みやすいようなまち」というような文言を入れてもいいのでは。
○鈴木副会長
・それこそ市民アンケートだとかこの間のいろいろ市民の声を聴いた中で、「安全、安心のまちづくり」ということがアンケートでも第１番になってきている。この抽象的なところに少し具体的なものを今後皆さんと御意見交わしながら入れられたらいいと思う。
○田辺委員
・まちづくりの計画の一番基本は人口の問題だと本当は思う。
・これから人を増やすのか増やさないのか、増やすんだったらどこに増やしていくということまで本当は考えるべきではないか。
・田島、内間木地域（九小や積水、２５４バイパスの周辺）がどう変わっていくのか。それを人口との関係で、総合振興計画をつくったものと全く違うものが今後開発で進められる可能性があるということは委員の皆さんに考えていただきたいし、環境の部分なり景観の部分というのはファクターとしては入れたい。
○小池委員
・将来像の文言については、第４次の現状の文言が非常によくできていると私は感じている。
・「安心、安全な居住環境」をつくっていくべきと思うが、この現状で将来像の文言についてはいいと思う。変更するなら基本目標や基本方針。もう少し細かく議論を重ねて深めるといいと思う。
○佐野委員
・「水と緑」や「環境」、「生活上の安全」、「豊かな暮らし」などには異論はない。
・住んでいる人にとってのまちと、今後朝霞に来てくださいとう魅力あるまちという視点で考える。
・「環境」、「交通の利便性」などや、魅力があるまちとして、「子育て」や「教育」に力を入れていくことを希望する。
○野本委員
・第４次の将来像を掲げてどうだったのかどこかで確認をしておく必要がある。
・アンケート結果等を見ると、住みよさのところでは平成１１年から２５年までで、ずっと住み続けたいという人がほぼ２倍になっているが、住み続けたい方が８割ということになると、固定化するという可能性があるなというふうに考えると、やはり個人には少し違った味付けをしないといけないのかなと。
・このまま継続というよりは、もっと違う視点を捉えていただきたいという気持ちがある。
○安野委員
・「安全安心」、「子育て」、「教育」を入れていきたいと思っている。
・現在の将来像は非常に分かりやすいが、「生きがい」とは何なのか。
・このキャッチフレーズがもっと一般の市民に広がるようにしていただきたいなと思う。

○鈴木（泰）委員
・例えば、水を例にしてもいろんな面で１０年はかかる。
○斎藤委員
・将来像としては、「生活環境」や「文教」など、どちらか一方ではなくて、二つを含んだ表現にしなければいけないのではないかと思う。
○鈴木副会長
・若い人が住みやすくなってきているまちになっていると感じる。
・今大きく朝霞が変わろうとしているところが、朝霞の積水、ここが今、工業、拠点、地域と都市計画では朝霞市に三つあり課題となっており、内間木方面の２５４バイパスがあと１０年もすると完全に開通するが、沿道をどうするのかも課題となっている。
・第４次の将来像の「生きがい」については、今度は各項目の中で具体的なものを入れていって、将来像には「環境」、「安全」、「安心」を直す程度かなと感じている。
○大橋委員
・「生きがい」とは、「好きだ」ということを、言葉を変えていると捉えていただきたいため、将来像の中でも重く重要な文言だと思う。
・第５次に向けて不足している部分として、人を育てるという「教育」にかけてもうちょっとやはり力点を入れてほしいと思っている。
○高橋委員
・住宅都市と共存させて「水と緑」を大切にしていくかということが、大切にしていくかということが重要な論点だと思う。
・朝霞の森について、例えば市が買い取ってそのまま保全していっていただけたら、子供の教育にとっても重要なことだと思う。
○田辺委員
・「将来像」、「基本目標」「実現のための基本方針」について、こういうスタイルはどこの自治体でも、総合計画のあり方としてよくあるスタイルであるが、必ずしもこれにこだわらなくていいんじゃないかなというのが私の考えである。
・「基本目標」について、個別計画の中にそれぞれ設定されていると思うので、それを審議会に出していただいて、皆さんに見ていただくのも一つかなと思う。
○佐野委員
・どんなまちにしたいかというところでの、いろんなディスカッションができればいいなと思う。
・「教育」について、今は開かれた学校というで、市民が学校づくりの中に加わっていくということは、学校づくりをお手伝するだけじゃなくて地域づくりにつながると思う。
○斎藤委員
・「生きがい」というのは好きになるとか、非常に具体的に分かりやすい。
・トータルすれば「人づくりのまち」というようなコンセプトで集約されるんじゃないかなと思います。

○沼田会長

・第４次までの総合計画、基本構想は、地方自治法で義務付けられていたため、自治体の看板を背負っている以上つくらざるを得ないという状況でつくっていたため、役所中心の、役所主導の計画にならざるを得ないところがあってきたというふうに思う。

・これが平成２３年にこの義務付けが解かれ、勝手にしなさいよということになり、第５次の審議が始まっているが、義務付けが解かれてもこの朝霞市はつくるということで今この委員会をやっている。

・簡単に言うと「役所の計画」から「市民の計画」に変わる必要が、性格的に基本的にもうすでに変わっている。そう変わったんだということがこの将来像のイメージで分かるようなものに、本当はした方が私どもの審議会としても、あるいは市民に対する受けとしても、内容を市民に徹底するという意味でも、明らかにこれは変わったんだなというのが分かるようなイメージというんですかね。

・言葉を変える必要があるかどうか、また用語の話では今日はないのであれなんですけれど、性格付けが変わったんだということですね。だから第４次までの理念はもちろん継承しますけれど、これをこのままというわけには多分いかないんだろうなという。何かプラスアルファ、市民の計画なんだというイメージをやっぱり徹底する必要あるというふうに、私個人は、皆さんの意見を聴いて思いました。

■「施策の大綱」編

○小池委員

・「土地利用」について、住宅、工場、人口増等を図っていかなければならないのではないかなと思う。それが将来１０年、２０年、５０年、長いスパンで必要になってくる。そのための次の１０年で何をするべきかを考える必要があると思う。

○田辺委員

・危機管理室だけの「安全・安心な暮らしを支えるまち」というのがどうかと思う。

・産業振興の部分で、市が具体的にやることは補助金など非常に限られている。でも、「住宅都市」や「文教都市」などの「住みやすいまち」と言ったときに、その地域に生活をするときには、消費するための店舗が身近なところにあり、朝霞のまちの中でいわゆる経済が回るような仕組みというのが本当は必要ではないか。

・市民がつくる計画として考えたときに、市のたたき台はどうなのかも含めて考えていただきたい。

○百武委員

・「安全・安心」については市民の関心が非常に高いため特出したのはいいと思うが、この「安全・安心」が必ずしも「防災と消防」だけではなく、道が歩けないなどもあり、「交通基盤の整ったまち」などと関係してくると思う。「安全・安心」の言葉でイメージするものにしっかり集約してあげる方が分かりやすいし、部署が違うのであればコラボレーションしないと解決できない問題であるため、「活力と調和による住みよいまち」の方に近いのかもしれないし、あまりその今の体制に限らずに、その言葉から皆さんが抱いているニーズなどに合わせて組み替えた方がいいのではないかと思う。

○野本委員

・現状の組織から当てはめるのではなくて、逆にまちづくりの中に道路１本つくるにしても防災上はどうなのか、福祉上はどうなのか、学校の通学、教育上はどうなのかというふうな、そういうアプローチの仕方もあるのではないかと思うため、この組織にこだわって分類すると無理が出ると思う。

○斎藤委員

・実務的に進めるには事務局のたたき台の分類も可能かなという気がする。

・市民が欲することを優先的にやるというのが一般的だろうと思う。

・民間だとお客さんが欲することをやり、そうすると、この分類はアンケート結果で出た市民の欲するものをカテゴリー化して分類していった方がいいのではないかなと考える。

○大石委員

・例えば、緑の問題と都市計画の問題は、計画的には相反するものだと思う。

・朝霞市に４５パーセントの調整区域があるが、これを撤廃したら緑を残すということはできないと思うが、どう整合を図るのか。

・約１３６，０００人の人口推定だが、朝霞市が大体どれくらいの人口で突進するのかということが、基本的に都市計画に関連すると思う。

○田辺委員

・将来都市構造のゾーニングや、大綱の「自然と調和したゆとりある都市づくり（都市整備）」の土地利用に関わることで、個別でもちろんこの総合振興計画の中にこれを入れていくことは別にいいと思う。

○安野委員

・さきほどまで議論した将来像を踏まえてこれを見ると、関連性が見付からないなというのが私の正直な感想です。たたき台の４ページについて、仮に第４次計画の将来像をそのまま維持すると、最初「水と緑に満ちた」というフレーズをこのたたき台で見ると、どこにあるのかと言うのがぱっと見て分からないというのが正直な感想である。

○中村委員

・少し時間をかけてワークショップをやってはどうか。例えば、「水と緑」という一つキーワードをつくったときに、どういうことが考えられるのか。このたたき台のとおりには絶対いかなくて、「安全・安心」と言っても暮らしの安全もあるし、道路のバリアフリーやユニバーサルデザイン、消費生活など色々な問題があり、これらも市民の「安心・安全」に関わってくる。

・色々なものを仕分けしながら、「安心・安全」というキーワードをつくり出したときに、どういう施策なりどういう事業が必要になるのか、そのような形で整理をしてみたら、これが市民からの目線の新しいマスタープランづくりであろうと思う。

・審議会でワークショップをやってみて、また新しい視点が見いだせるかも知れない。

○百武委員

・第４次の基本方針で「パートナーシップによるまちづくり」として「市民協働のまちづくり」を挙げているが、この部分はあまり朝霞のよくないところで、市民参加の場や仕組みが不足していることや、そこに対して満足度がまだ足りてないのではないかという意識があり、たたき台の「基本構想の推進に向けて」の部分に「市民参加と協働によるまちづくり」が入っているが、これを一つの「基本方針」や「基本目標」に格上げするのであれば、これも一つ項目として挙げて、逆にコミュニティとか市民活動、１０項目目に出ているようなことも加えて、きちんと政策を位置付けてあげることが重要でないかと思う。

○斎藤委員

・根本的な問題は全てが関連してしまっているということ。これは、どれか一個を取り出してそれだけで完結するような問題ではなく、市の行政の方の区割りの方に当てはめ過ぎてしまっているというところが、根本的な議論の出発点になってしまっていると思う。

・そうすると、もっといろいろな議論をした方がいいと思う。個人的な発想だが、たたき台を大ざっぱに三つか四つに分けられる。一つ目が、朝霞市の「空間計画」。緑地や道路という「空間計画」。二つ目が、「教育システム」。システムという意味は広いが、幼稚園から大学まで、あるいは市民参加も含めて「教育システム」。三つ目が「産業振興」。四つ目を入れるとしたら「財政基盤」。最初の三つを行政で配置も考えていただければいいのかなと思う。

○渡邊委員

・「市民参画の推進」について、この１０年間を振り返って実現できていたのかどうか。もしまだまだ市民の意識がそこまで達してないのであれば、格上げするなりもっと重要視するべき項目だと感

じる。また、もしそれ以上に市民の意識が高まっているのであればもう少し先を進んだ形の表現で、この「市民参加と協働によるまちづくり」という言葉を使ってほしいと思う。

〇田辺委員

・一般的に地方自治体の、一番身近な自治体のやらなくちゃいけない部分として、教育と福祉の部分というのは非常に大きいと思う。

・ただ、福祉に関しても非常に財政的にも重くなってきているという現実があり、後は今までに比べると道路や園ある程度はもうできてきているため、次は歩道と車道の分離や自転車道をつくるという話がどんどん広がっていくと財政として全部やれませんという、非常に歯がゆい部分だと思うが、そこら辺その財政フレームとここの計画とが最初からある程度融合させてやるものなのかどうかというのが、一つ考えなければいけないと思う。

〇野本委員

・たたき台４ページ。（２０）「効率的な電子計算システムの維持」について、計画の大綱の段階で、このような具体性はいいのかどうか。

・行政システムや、いわゆる建築して何年も経っている施設が多いため、行政財産をもっと効率的に見ていくというようなことであれば維持していくということで分かるが、なぜここで電子計算システムだけが突出したのか。

〇高橋委員

・産業開発について、次の内間木の開発はどうするかというのは重要になってくると思う。

・朝霞市内の中心部の環境はよくなってきているので、今度は広げて整備していくところにきていると思う。

〇沼田会長

・この意識調査で言っている「安心・安全」は「防災・消防」ではないと思う。この市民の「安全・安心」の思いを読み違えると駄目なことになるので、この審議会でこの意味の中身をきちんと解いていかないと駄目だと思っていて、まちをどうやって耐震化するのかという話や、あるいはコミュニティをどうやって強靭化するのかという話で、そこから「連帯」や「協働」という、今まで皆さんが言われたようなことにつながっていく話だと思う。

・「防災・消防」はないよりはあった方がいいというレベルのことで、この「安全・安心なまち」をどうやってつくるのかというのはもっと深い話なので、この意識の重さというのをどうやって受け止めるかというのが、皆さんで是非時間を使って議論をして、ここが解ければ全体が見えてくるというふうに、将来像も多分ここから見えてくるというふうに思っている。

〇田辺委員

・規制改革で今緩めるという話はあるが、逆に建築基準や開発許可ということで規制をしている。良質な住宅の提供は一般民間企業がするが、市がそれをＯＫするかしないかというそのセクションがある。「安全」や「災害にも強いまち」をと言ったときに、建築や建物の開発ということに関してやはり市の役割が非常に重要である。

・そういう意味で、「防災」の中に市がやっている「開発規制」や「建築許可」の規制というのはそこに入ってくると思う